

目録業務の現在と未来

東北大学附属図書館 図書情報係

代田 有紗

図書^の整理業務

1. 受入業務

発注 → 納品 → 検収 → 支払 → 資産登録

2. 目録業務

書誌・所蔵登録 → 分類・装備

目録とは

◆ 対象

:「著作」が何らかの形で具体化された「版」

◆ 役割: 識別機能と集中機能

◆ 構成: 書誌情報と所蔵情報

目録の種類

◆蔵書目録

: 冊子目録, カード目録, コンピュータ目録 (OPAC)

◆総合目録 : 書誌ユーティリティ (NII, OCLC)

◆集中目録 : 全国書誌作成機関 (NDL, LC)

目録規則

◆構成

: 記述の部 (識別機能) + 標目の部 (集中機能)

◆国際原則

- ・パリ原則 (1961) ← 標目
- ・国際標準書誌記述ISBD (1971) ← 記述

目録規則

- ◆ 日本目録規則1987年改訂3版(2001年刊行)
 - ・和資料に適用
 - ・「記述」「標目」「配列」
- ◆ 英米目録規則第2版改訂版(2002年刊行)
 - ・洋資料に適用
 - ・「記述」「標目、統一タイトル及び参照」

目録作業

- ◆ NACISIS-CAT(参加機関1,337館) * 2018年3月末
: 大学間の共同・分担目録作業
- ◆ 入力基準
: 「目録情報の基準」「コーディングマニュアル」
- ◆ 典拠コントロール
: 著者名典拠と統一書名典拠

共同・分担目録作業の手順

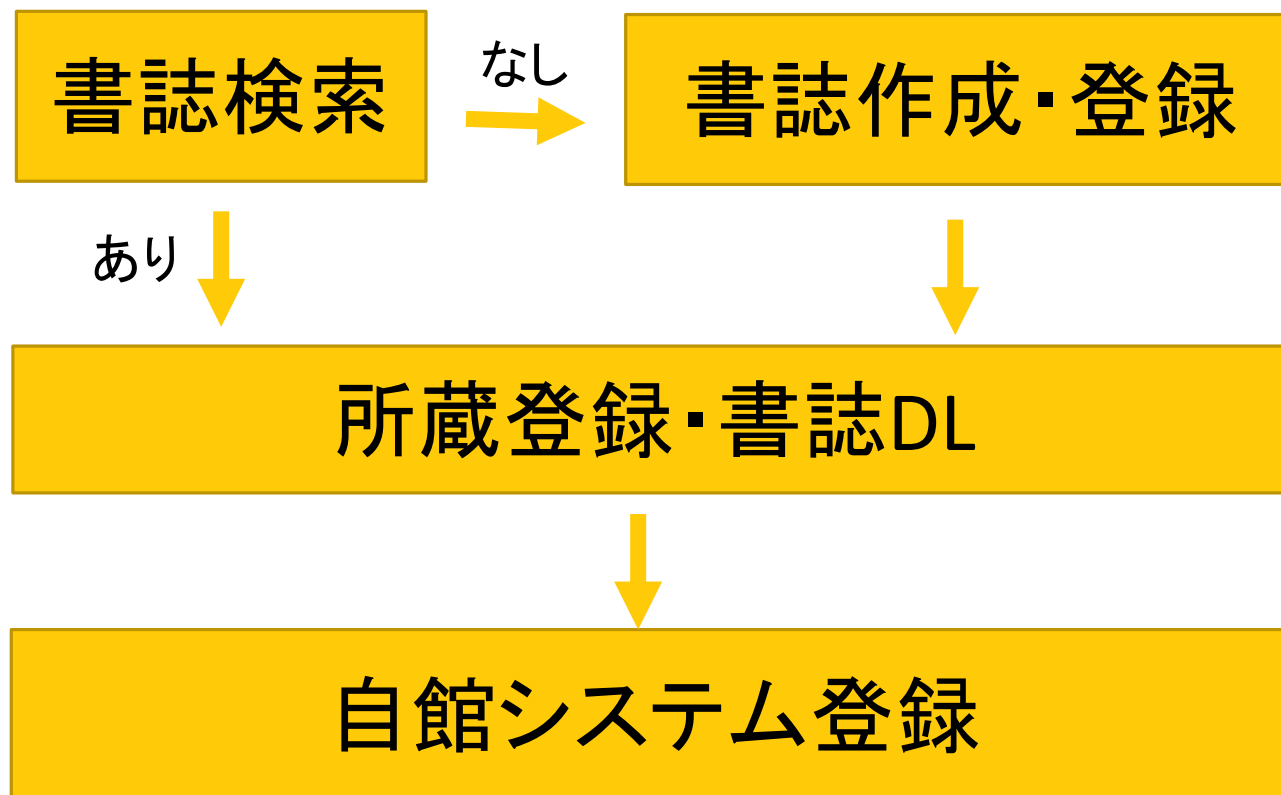
NACISIS-CAT

総合目録データベース

- ・図書書誌 図書所蔵
- ・雑誌書誌 雑誌所蔵
- ・著者名典拠
- ・統一書名典拠

参照ファイル

JP/MARC, TRC/MARC, US/MARC



今後の目録業務

◆ 目録規則の見直し

- ・電子資料の発達
- ・目録の作成・提供環境の電子化
- ・国際的な書誌データ流通の容易化

◆ NACSIS-CATの軽量化・合理化の検討

目録規則の見直し

◆ 新しい国際標準

- ・ **書誌レコードの機能要件** : 1997年策定
- ・ 国際目録原則 (ICP) : 2009年刊行
← パリ原則
- ・ ISBD統合版 : 2011年刊行

書誌レコードの機能要件 (FRBR)

◆ 実体

- ・ 著作 ➡ **表現形** ➡ 体現形 (版) ➡ **個別資料**
- ・ 個人, 団体, 家族
- ・ 概念, 物, 出来事, 場所

◆ 属性: 必要なデータ要素

◆ 関連: 実体間の関係づけ

新しい目録規則

- ◆ RDA (Resource Description and Access)
 - 「実体の属性」「実体間の関連」
 - FRBRの各実体を中心にした構成
- ◆ 日本目録規則2018年版
 - 「属性」「関連」
 - 「属性」はFRBRの実体別の構成

NACISIS-CATの軽量化・合理化

◆ 書誌作成・管理作業の軽量化

- ・外部機関作成データの活用と自動リンク形成
- ・作成館との協議廃止（並列書誌データの許容）

◆ データ構造の見直しによる合理化

- ・出版物物理単位での書誌作成
- ・書誌構造リンク形成作業の任意化

参考資料

- 田窪直規(2016)『情報資源組織論』改訂版, 樹村房
- 志保田務(2016)『情報資源組織論』第2版, ミネルヴァ書房
- 書誌レコードの機能要件: IFLA書誌レコード機能要件研究グループ最終報告(2004)

<https://www.ifla.org/files/assets/cataloguing/frbr/frbr-ja.pdf>

- 日本目録規則2018年版

<https://www.jla.or.jp/committees/mokuroku/ncr2018/tabid/787/Default.aspx>

- NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について(最終まとめ)(2018年10月)

https://www.nii.ac.jp/content/korekara/archive/korekara_doc20181019.pdf